

深浦町の花



福寿草

深浦町の木



樺

深浦町の鳥



カモメ

発行／青森県深浦町 編集／総合戦略課企画調整係
0173-74-2111(代表)

ちびっこ チャンピオン

さかさき みづきさん (5さい)

このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



「はるがきた！」 みはる保育園

こんなに
元気です!

このコーナーでは
誕生日を迎えたチ
ビッコ達をご紹介します



三浦 椰月くん
(岩崎中) R2年5月12日
「我が家のスルスケぼんず」



川幡 湖白ちゃん
(柳田) R3年5月24日
「Popcorn Yummy!」

草創教育長の 「今月の一枚」

山菜と津軽弁講座

春先は、よく山菜採りに出かけます。
先日、友人夫婦と裏山にウド、タケノコ採りに出かけたときの会話です。
私「オイデだば、ウドの酢味噌あえサ身欠きニシン入れるばってオメダでも入れる？」
友「入れね。酢味噌だけで食う。」
私「んだ？ 津軽のことわざで『ウドとニシ』っておべでら？ 仲いい夫婦とか親友とか、相性ぴったりの人間関係の喩えとえだ。五所川原とか金木とか、海無え所は昔『ウドと鯉』って言った話も聞いた事ある。オメダヂ夫婦も『ウドとニシ』だべな。」
友「なも、オイの嬢、神経たがりだし、塩梅けなしだし、ふとつともバンゴウ合わね。」
友の妻「んだんだ。オメ一番、馬のクソ二番。」
私「ワイ、おたがいシヤベ過ぎ。ちなみに『たがり』は実は標準語。漢字で書けば『集り』、一カ所に群がる意味だ。人だかりとか、金をたかるつて言うつこさや。つがる弁だば、垢たがる、虱たがる、ホイドたがる、ガンジヨたがる、ランキたがる、スケベたがる...あまり、きれがだだ言葉はねえなあ。」



友「わいさでね、オベ様だな。」
私「んだべ。おべだふりは得意！ 順番に並べればオベコ→オベ様→オベ博士。英語の原級→比較級→最上級、big→bigger→biggest みたいなもんだべ。以上、ワンポイント津軽弁講座、終わり。」
少しモッテル場面もあります。が、気がねなく、100%方言で話せてさっぱりしました。
作家宮部みゆきの『悲嘆の門』に次のような文章があります。
言葉はどんな些細な片言隻句でさえ、発信されると同時に、その人の内部にも残る。...つまり「蓄積」する。...溜まり、積もった言葉の重みは、いつかその発信者自身を変えていく。どんな形で発信しよう、本人と切り離すことなんか絶対できない。本人に影響を与えずにはおかない。
つまり、発した言葉はあなたの中に積もりあなたを形造っていくということでしょう。
ふるさとの言葉が自分の中に積もり、やがて自分自身もふるさとの一部になっていくとしたら、なんと有難いことです。
『西浜の方言ことわざ集』なんか編集したら面白いかも。どこか取り組む学校、ないかな。
(教育長 草創 文人)